

ジャズレコード収集の愉しみ

原田 晋

はらだ皮膚科クリニック院長

今年で開業16年目を迎えますが、私の日々の生活はというと、①車はもっていない(開業の際に資金難から所有していたベンツを売却してしまい、以降移動はひたすら自転車)、②ゴルフに行ったことは一度もない、③つつましく育ったせいか味覚が鈍く、高級フランス料理店などに行ってもエンジョイできない(もっとも行きたいお店はB級町中華)、④お洒落には無頓着で、服は必要最小限しか買わない、⑤お姉さんのいる高級クラブなどには行ったこともないし行きたいとも思わない、といった具合で、いわゆる“お金持ちの開業医の先生様(?)”のイメージとは遠くかけ離れた暮らしぶりです。

そんな私の楽しみはというと、野球観戦(けっこうコアなオリックス・バファローズファンです)とジャズ鑑賞であり、後者に関しては、ジャズライブに出かけたり、20年以上ピアノのレッスンに通ったりもしていますが、中でももっとも心血を注いでいるのはオリジナル盤のジャズレコード収集です。

よく“切手集めは趣味の王道”と称されますが、切手集めならばコレクションを眺めることしかできません。一方、レコードの場合にはジャケットを眺めるのみならず、古いオリジナル盤に顔を寄せると塩化ビニールの褪せた匂いがして1950年代のアメリカにタイムスリップしたような気分を味わうことができますし、おまけに(笑)音まで聴けるわけですから、これぞ“趣味の王道”と称するのに相応しいものと確信しています。その結果、現在では約5,000枚のレコードを所有しており、自宅2階にあるレコード部屋の重みで1階の玄関のドアの開閉が困難な状態になりつつありますが、それでも飽きたらず新たなレコードを所有したいとの欲望は募るばかりです。そんな私に対して、妻は「レコードを買うことで、人生の購買欲のすべてを満たしている」との名言を吐きましたが、自分自身でも「なるほど、いいえて妙やな」と共感してしまいます。



開業医としての生活は日々多忙を極め、疲労困憊して帰途につくことも少なくはありません。しかし自宅で深夜に1人、オリジナル盤のジャケットを眺めて、匂いを嗅いで、そして音を聴いていると渴が癒され、明日の仕事への活力が湧いてくるのを感じることができるのです。